

教育・保育理念
 ・自分も友だちも大切にできる心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力の発揮

園の重点項目
 ・一人一人の人権を尊重した関わりをすることで、子どもたちが自分も人も大切に思い、主体的に環境に関わってける基盤を育てる

重点目標
 ・体をのびのびと動かし、しなやかな体をつくる
 ・人との関わりの中で、学びあい、育ちあう関係をつくる
 ・自然に触れる体験を通して、生命の不思議さや尊さに気づく
 ・主体的に遊びこむ活動を保障し、学びに向かう芽を育てる
 ・保護者や地域の方と連携し、ともに子育てをする
 ・幼稚園、小学校、中学校と連携し、学びと育ちをつなぐ
 ・職員の資質向上をめざす

重点目標	重点目標に向けた具体策	評価項目	評価	自己評価	評価	こども園評価
体をのびのびと動かし、しなやかな体をつくる	アートヨガ、リズム運動など全身運動を活発にし、しなやかな体づくりをする	<ul style="list-style-type: none"> こどもの発達過程に応じ、個人差に配慮しながら、発達を保障する。 教育・保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態をふまえて安全教育を行う 学校安全計画および危機管理マニュアルに基づき、事故発生時における職員の対応や地域・関係機関との連携体制を確立する 	A B A	ふれあい遊びやリズム遊び、アートヨガに継続的に取り組んだり、発達に応じて様々な遊具で体をしっかり動かしたりすることで、体を動かす楽しさや心地よさを感じ、自信や意欲につながった。一方で転びやすい、転んだ時に手をつかない姿があり、引き続き体づくりをしていく。	A B A	発達に合わせた遊びや遊具を取り入れ、工夫しながら子どもたちの体づくりをされている。自信や意欲につながっていることもよい。運動会では園児に就いては交通ルールの周知など、引き続きお願いしたい。
人との関わりの中で、学びあい、育ちあう関係をつくる	異年齢交流や友だちとの関わりの中で互いに刺激を受けたり、自信がつく取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな経験を通して協調性や思いやりの気持ちを育てる。 お互いのことを認め合い育ちあう関係づくりを行う 憧れの気持ちやいたわりの心が育まれるように取り組み内容を工夫する 	A A A	友だちとの関わりや集団遊び、当番活動などを通して、一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、刺激を受けたりしながら、友だちの思いに気づき、認め合える関係をつくってきた。昨年度の課題であった異年齢交流は積極的にもつことができ、小さいクラスの友だちへの優しい関わりや大きいクラスの友だちへの憧れの気持ちが育まれた。	A A A	異年齢交流により各年齢の学びや育ちが見られ思いやりや認め合う関係が伸びている。気持ちや和らぐ、落ち着く、心を育む取り組みがよい。地域の高齢者に優しく接する5歳児の姿に触れ、いたわりの心が育まれていると感じた。
自然に触れる体験を通して、生命の不思議さや尊さに気づく	近隣の公園や土手に散歩に出かけ自然に触れたり、プランターでの菜園活動や昆虫を飼育するなど命の大切さを感じる活動をする。	<ul style="list-style-type: none"> 自然とのふれあいや体験を大切にし、生活や遊びの中での学びを保障する 園児の意欲や探求心などを引き出す保育教諭の関わりを大切にする 遊びの中での成功体験や失敗体験から集中力や粘り強さを育てる 	A A B	ダンゴムシやバッタ、カブトムシなどを観察したり触れたりする経験を通して命の尊さに気づき、小さな生き物への興味関心がひろがった。菜園活動では季節の野菜や果物を育て、生長過程を観察した。収穫物を使ったクッキングでは五感を刺激する取り組みとなり、食べたい意欲にもつながった。	A A A	プランターなどを利用しながら栽培活動や食育、生き物飼育など、子どもたちの興味関心を引き出し取り組んでいる。生命の大切さへの気づきがある取り組みがよい。園児が雨上がりに小さなカタツムリに興味を示している様子を見て嬉しかった。
主体的に遊びこむ活動を保障し、学びに向かう芽を育てる	自立心を育て、他の幼児と関わりながら、主体的な活動を展開する。 子どもの興味や関心、発達、季節に応じた環境の中、遊びの楽しさを味わえるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 保育教諭との温かいふれあいを通して愛着関係を育み意欲的に生きていく力につなげる 園児の行動を温かく見守りながら思いを受けとめ自尊感情を育てる。 「主体的・対話的・深い学び」を実現する実践を展開する。 園児の興味・関心に基づき、遊びこめるような様々な種類の協力のもと環境を整える 季節を感じ、生活を豊かにする行事や成長を喜び合う行事に取り組む 	A A B A A	子ども一人一人の気持ちを丁寧に取り止めて関わることで、保育教諭との愛着関係や信頼関係を深め自尊感情を育ててきた。安心して自分の思いを伝えたり、友だちの思いに耳を傾けたりする姿も育ってきている。生活習慣面では一人一人の姿や発達に合わせた援助や言葉かけを行い、自分でやってみようとする意欲につながった。年齢に応じて、子どもたちが自分で遊びを選べるような環境づくりにも努めた。幼児クラスでは行事の取り組みについて、意見を話し合ったり話し合ったりすることを大切にできた。	A A A A A	各クラスの担任がそれぞれのクラスの重点目標達成に向け、園児の気持ちを大切にしながら懸命に教育・保育を行っていると感じた。保育教諭の子ども一人一人の丁寧な関わりにより、自らやってみようとする意欲やほかに子への動きかけ、意見を出し合う、友だちの良い姿を認め合えるなどの育ちにつながっていると思う。環境づくりへの配慮がよいと感じた。
保護者や地域の方と連携し、ともに子育てをする	日々の送迎時や懇談会等で子どもの良いところや成長を分かちあう。 園庭開放や子育てサロン、ほっと預かりやリフレッシュ預かり等で地域の保護者に専門性を活かした保育の提供や相談対応を行う	<ul style="list-style-type: none"> 家庭環境や保護者のニーズを理解し、ともに子育てしていく視点を持ち信頼関係を築く 保護者に教育・保育内容をドキュメンテーション等で可視化し、子どもの成長を共有する。 地域の関係機関や子育て支援関係者と連携、協力を図り、適切な支援を行う 未就園の親子の交流の場を設けたり、子育て相談に応じ、地域の子育て支援を充実させる 	A A B B	生活記録・連絡帳からキッズビューでの配信となり、個別の姿を伝える機会は減ったが教育・保育の写真配信や送迎時のコミュニケーションを大切にできた。保護者参加の行事では子どもの園での様子や、成長を見てもらう機会となった。昨年度の課題であった「ほっと預かり」「リフレッシュ預かり」を再開し、1校区だった子育てサークル支援を2校区に充実することができた。園児と地域の親子の交流を持つ機会を作っていく。また5歳児が初めて「いきいきサロン」に参加し、地域の高齢者の方と良い交流の機会となった。	A A B B	情報発信を積極的にされており、保護者や地域の方などとの関係を深めているところがよい。ただ、キッズビューの移行に伴い、情報量が少なくなったと感じている保護者の意見もあり、改善していただきたい。いきいきサロンとのふれあいもよかった。今後地域との連携を深めていただきたい。
幼稚園、小学校、中学校と連携し、学びと育ちをつなぐ	年長クラスが中心となり、近隣の幼稚園・小学校と交流し、つながりを深める。 こども園の育ちと小学校の学びがつながるようにしていく	<ul style="list-style-type: none"> 小学校児童や幼稚園児との交流、教員との意見交流など連携を通し教育保育の質の向上を図る 一人ひとりの園児の育ちについて、小学校と情報を共有し、円滑な接続につなげる。 乳幼児期に育てたい力が小学校以降の学びにつながるような指導計画を作成し、「10の姿」を意識した教育・保育を実践する。 	A B A	5歳児が家原寺小学校、上野芝小学校との交流を通して、教室の雰囲気を知り、施設の使い方を教えてもらったことで、小学生になる自覚や期待感を持つことができた。また、津久野幼稚園の広い園庭で一緒に遊び、同じ地域の同じ小学校に通う子どもと交流することができた。それぞれの年齢でこども園の育ちが小学校につながるよう「10の姿」を意識した教育・保育を実践した。	A A A	未就学児→小学生の変化はよほど大きいと思われるため、小学校との交流で期待感が高まっているのはよい。また、こども園・幼稚園・小学校との交流を重ねていくことで子どもたちの楽しみや期待感が膨らみ、連携の効果が表れていると思う。交流時の様子を聞き、改めてその大切さを感じた。
職員の資質向上をめざす	教育的視点を持った保育や環境について学び合い、実践にいかす	<ul style="list-style-type: none"> 研修などを通して専門性や倫理性の向上に努めるとともに自己研鑽を積極的に行う 教育・保育実践を振り返り、自己評価を通して質の向上を図るとともに専門性を高める 理念や方針、教育・保育課程や指導計画について職員同士が共通理解する 職員同士の交流や情報交換を円滑に行い、園児の学びと育ちをつなげていく 	A A A	研修で学んだ内容を職員間で共有し、共通理解のもと子どもたちにより良い保育の提供ができるよう取り組んだ。教育・保育を振り返り、職員間で連携しながら一人一人の発達に応じた関わり方をし、子どもたちの経験や育ちへとつなげた。公開保育では初めて幼稚園、民間園に参加してもらい、ごっこ遊びについて深く話し合えることができた。	A A A	園内研修、公開保育など様々な研修を取り入れ、職員間で共有し合い、実践に生かし、子どもたちの育ちにつなげていることがよい。こども園評価委員会でご担任より取り組みを発表されたことが何よりも資質向上につながると感じた。

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法	園長より
支持力を高める体づくり	・発達に応じて両腕で自分の体を支えられるような遊びに取り組む。	今年度も職員間で話し合いを重ね、様々な教育・保育活動をすすめてきました。菜園活動や異年齢交流、地域との交流の充実につながりました。次年度は左記の取り組みについて学び合い、実践していきたいと思っております。
主体的に遊びこめる環境づくり	・子どもの興味や関心に応じ、主体的に遊べるような保育室の環境を整える。 ・「主体的な遊び」について園内研修を通して職員間で学び合う。	